

山本正身著『日本教育史』正誤表

修正箇所	修正前	修正後																		
32 頁左から 4～5 行目	一六九一（元禄四）	一六九〇（元禄三）																		
34 頁左から 2 行目	であった朱子学者	で朱子学者の																		
38 頁最終行～39 頁 1 行目	伊藤仁斎（一六二七～一七〇五）の古義堂（一六六二年開塾）、山崎闇斎（一六一九～八二）の闇斎塾（一六六五年開塾）など、	山崎闇斎（一六一九～八二）の闇斎塾（一六五五開塾）、伊藤仁斎（一六二七～一七〇五）の古義堂（一六六二開塾）など、																		
65 頁左から 2 行目～66 頁 1 行目	大学寮代には、国学者以外に漢学者たちも教授として任用されたが、教学界の主導権をめぐる両者の対立が激化したためにこの学校は閉校となり、これに代わって同年九月公家の屋敷を利用して皇学所と漢学所とを別個に開設することにした。だが、これも	だが大学寮代は、古代に実在した漢学中心の教育機関であったため、国学者たちがこれに反発した。この教学界の主導権をめぐる国学・漢学両派の対立激化により、政府は同年九月に国学系の皇学所と漢学系の漢学所とを別個に開設することにした（大学寮代は漢学所に解消される形で廃止された）。しかし両校とも、下記の大学校設立構想に基づいて																		
67 頁 3 行目	古代の大学寮に倣った	本教学（国学・神道）を中心とする大学の創設案である																		
69 頁左から 8 行目	町組数は六五であったが	町組数は六六であったが																		
69 頁左から 7 行目	小学校が一枚あった	小学校が二枚あった																		
92 頁左から 4～5 行目	、その四年間を毎年四ヵ月以上出席すればよいとされた。	た。ただし、その四年間は毎年四ヵ月以上授業を行うべきものとされた。																		
97 頁 5 行目	での一六ヵ月以上よりも相当に厳格な規定といえる	の「最低限四年間に一六ヵ月以上」という規定に比べ、より就学の実効性を担保しようとする規定であった																		
114 頁左から 4 行目	同年一月	翌一八八一年一月																		
184 頁 9 行目	先鋭な試み	先鋭的な試み																		
234 頁の〔表 9〕を右の表に差し替える	<p>〔表 9〕 八大教育主張</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>講演者</th> <th>講演題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>及川平治（兵庫県明石女子師範学校）</td> <td>動的教育の要点</td> </tr> <tr> <td>稲毛詛風（創造社主筆）</td> <td>真実の創造教育</td> </tr> <tr> <td>樋口長市（東京高等師範学校）</td> <td>自学教育の根底</td> </tr> <tr> <td>手塚岸衛（千葉県師範学校）</td> <td>自由教育の真髄</td> </tr> <tr> <td>片山 伸（早稲田大学）</td> <td>芸術教育の提唱</td> </tr> <tr> <td>千葉命吉（広島県師範学校）</td> <td>衝動満足と創造教育</td> </tr> <tr> <td>河野清丸（日本女子大学校）</td> <td>自動主義の教育</td> </tr> <tr> <td>鯨坂（小原）国芳（成城小学校）</td> <td>文化教育の主張</td> </tr> </tbody> </table>		講演者	講演題目	及川平治（兵庫県明石女子師範学校）	動的教育の要点	稲毛詛風（創造社主筆）	真実の創造教育	樋口長市（東京高等師範学校）	自学教育の根底	手塚岸衛（千葉県師範学校）	自由教育の真髄	片山 伸（早稲田大学）	芸術教育の提唱	千葉命吉（広島県師範学校）	衝動満足と創造教育	河野清丸（日本女子大学校）	自動主義の教育	鯨坂（小原）国芳（成城小学校）	文化教育の主張
講演者	講演題目																			
及川平治（兵庫県明石女子師範学校）	動的教育の要点																			
稲毛詛風（創造社主筆）	真実の創造教育																			
樋口長市（東京高等師範学校）	自学教育の根底																			
手塚岸衛（千葉県師範学校）	自由教育の真髄																			
片山 伸（早稲田大学）	芸術教育の提唱																			
千葉命吉（広島県師範学校）	衝動満足と創造教育																			
河野清丸（日本女子大学校）	自動主義の教育																			
鯨坂（小原）国芳（成城小学校）	文化教育の主張																			
274 頁 9 行目	起草者井上は、	官定解説者井上は、																		
428 頁 7 行目	誰の目にも	誰の眼にも																		